

みんな、1つ年をとりました！

日本には、正月が来ると1つ年をとる「数え年」という習慣があります。生まれた時がもう1才。お正月を迎える毎に1つずつ年を重ねる(自分の誕生日はカウントしない)、昔から伝わる年齢の数え方です。お母さんのお腹に命が宿り生れてくる間も1歳としています。これは、西洋にはない考え方、「いのち」の始まりや「いのち」そのものをとても大切にしている年の数え方です。

正月に、年神様(としがみさま)から皆が1つ年をいただくと言う考え方が「数え年」の由来のようです。神社やお寺などでは今でも、数え年で年齢が示されているのを見かけます。

ちなみに「三つ子の魂百まで」のことわざがありますが、ここで言う三つ子は、数え年の3歳のこと。実年齢とは、1歳から2歳位の開きがあります。つまり生まれてから2歳くらいまでに備わった気質(性格)は、一生続くという意味です。だから「愛情をもって大事に育てよ」との先人からの戒めですね。

卒園、進級まで3ヶ月を切りました。ペンぎん、ばんだ、らいおんクラスの子ども達には、お正月が来てみんな一つずつ大きくなったと話をしてあります。朝の準備や帰りの身支度など親の手を放すチャンスです。車から降りたらリュックを背負わせましょう。子どもの持ち物の処理を見守り本人に任せましょう。誉めることを忘れずに…。帰りも、子ども達が自分の荷物を持つように働きかけましょう。親がした方が早いかもしれませんが。しかし、**ここでじっと「待つ！」ことが生活習慣の自立のきっかけになります。**帰ったらリュックの中の、歯磨きセットや着替えた服などを決まった所に出させてみるのも良いですね。すでに、そのようにされているところもあるかもしれません。

特にばな組は、これが一年生になる準備です。**親の手を放すチャンスを見逃さないようにしましょう。**

自分の責任で遊ぶということ…

11月から車庫に並べてあった5台のペダルゴーカート。いつも指を咥えて眺めていた子ども達でしたが、とうとう解禁の日がやってきました。これは、何年も前から考えていた「しかけ」です。園庭の最南側にサーキットを整備して2年。時々、コースから外れて乗り回す子どももいましたが、「乗り物はサーキット」のルールが定着しつつあった年の暮れに、**ペダルゴーカート乗車の運転免許取得の試験をしました。**

5台のうち2台は、あのJEEP車仕様(通称JEEPジュニア)。耐荷重は50kgもあります。車輪も大きく大人の私が踏み込んで、前に進むのにかなりの力が必要です。バックなどとてもとても…。発達から見てこれを操れるのは、4歳児(もも組)と5歳児(ばな組)。それもキックバイクをペダルでスイスイと漕げる子どもに限定しました。さっそく、自転車にのれるかどうかの実地試験を行いました。結果、JEEPに乗れなくて悔し涙を流す子どももありましたが、決まりは決まり。**キックバイクをこげることは、バランス感覚や横転した時も受け身ができています。また、何かにぶつかりそうになった時も危険を回避する術も備わっています。**

そして、学科は、次の5つの質問に答えられたら見事合格、免許証を交付しました！

- ①キックバイクは駐車場にバックで止める。
- ②乗り物は、サーキット内を一方通行で走行する。
- ③乗り物に乗る時は、靴をはく。
- ④人や他車にぶつからない様にする。
- ⑤ゴーカートに乗る時は運転免許証を必ず携帯する。

なお、JEEPに乗れない子ども達は、バシーに乗れます。これも耐荷重は30kg。結構な負荷がかかります。これを機に、三輪車は撤去しました。今2~3歳用のキックバイクを探してもらっています。

凸凹の庭で思い思いの遊びや挑戦を通して、自然に足腰や体幹が鍛えられることが、冒険の庭のねらいです。決めるのも止めるのも本人の自由。しかし、その**自由は、ルールが守られて保障されること。秩序の中に自由が存在します。**免許証の管理は自己責任。無くせばもう、再発行されません。ルール違反があれば免許止です。大人の社会と同じ。この前、サーキット内にベンチとコンテナを運び基地を作ろうとしていた子ども達がいました。一見、素晴らしいアイデアですが、「ここは、乗り物が通る道路だよ。あなた達は、車が通る道路で遊ぶの?」と私。すぐに片づけていました。**危ないからダメではなく、なぜいけないのか、ではどうしたらよいのか**を大人が指示するのではなく、**子ども達自らが考える言葉がけが大事**になります。何度も言いますが、子どもの遊びは大人社会の模倣です。小さくても自分が選択したことや決めたことは、責任が伴うことを遊びを通して身につけてほしいと考えます。

★12日に3歳児(ぶどう組)さんも試験を受け、憧れの免許証を手に入れました。

